

シカ肉加工 官民事業頓挫

【中山】シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。

【中山】シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。

【中山】シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。シカ肉加工施設「イノチヨ」の建設が頓挫。国からの交付金不正取得か、運営会社が破産手続きを申請した。

▲道新も遅ればせながら報道した(4月11日付朝刊・道北版)

『イノチヨ ツナグ』 事業の終焉

道が実態暴く

～本誌報

公金の使途も 不明のまま…

道北・中川町の

総務省補助事業

シカ肉加工施設「イノチヨ」プロジェクトのキナ臭さを追う

訴訟騒ぎも…

特集

道北・中川町の



本誌の昨年12月号報道に端を発した道北の上川管内中川町のエゾシカ加工処理事業「イノチヨツナグ・プロジェクト」が破綻した。運営会社が破産手続きに入ったもので、国の交付金や町の補助金、地元信金の制度融資など合わせて1億円近くを使った事業は水の泡となる最悪の結末を迎えた。

(本誌特別取材班)

根は黄緑色で幼児に人気だった施設は野生のエゾシカの墓場と化していた。エゾシカを搬入する人口付近には、1層ほどに伸びた角を持つオスのエゾシカの首から上が、肉片をつけたまま散らばっていた。

工場周辺に鹿の残骸が

また施設の正面には、大型の冷凍設備機器があり、この中にも大量の肉片があった。電源コードがつながっていたものの電気料金未払いで電気が停められていたため、気温の上昇とともに腐敗が始まっていた。

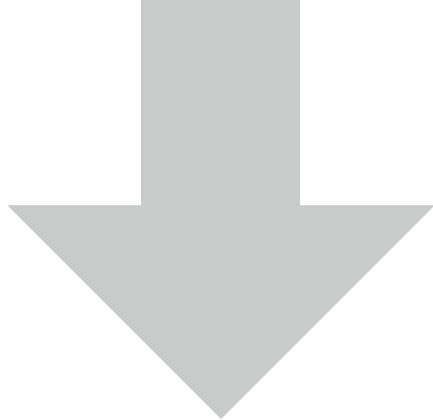
わずか5+

増え続けるエゾシカを駆除するだけでなく、食肉やペレットにした肉、エゾシカの皮製品を作り、海外や海外にも輸出しようという計画を、2017年8月下旬に中川町が「イノチヨツナグプロジェクト」としてスタートさせた。

状況を見ると、キツネなどの野生動物が施設横に建てられたバラック建屋の中からエゾシカの死骸を引きずってきたように見える。バラック建屋の窓は壊れているだけでなく、建物前のポリボックスにも大量の死骸が詰め込まれ、鼻をつく腐臭に思わず吐き気を催し

間て裁判となり、のちに和解。また、女性経営者と現在の中国人経営者との間で借金も発生しており、「イノチヨツナグ」プロジェクトが、つなぎ資

▲本誌昨年12月号(11月15日発売)が疑惑の第一報



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)